

第7分科会 不登校傾向の生徒に対する支援の実際

～関係機関との連携を通じた生徒理解と指導・支援～

新潟県立吉田特別支援学校 中学部

I 実践の背景と生徒の実態

対象生徒Aさんの実態と家庭環境をふまえた入学までの経緯

| 生徒Aさんの実態と基本情報

医師診断名	自閉スペクトラム症(ASD)
家族構成	父、母、本人(Aさん)、弟(当校中学部1年)
関係機関	県立吉田病院、県立精神医療センター、訪問看護師、燕市社会福祉課、通信制高校
入学前の実態	小学校低学年から欠席が多く、家族への暴言暴力があり、精神医療センター受診。市の適応指導教室利用。 小学5年で精神医療センター入院。退院後、再び不登校となり、投薬拒否、昼夜逆転が見られた。
入学後の状況	吉田病院に移り、主治医から助言を受けて中学進学タイミングで本校中学部に入学。 部分参加が可能となり、にこやかに人と接する一方で集団への緊張が強い。他者交流の過負荷により、登校が遠ざかることもあった。

Ⅱ 3年間の支援プロセスと取組

スモールステップで進めた関係構築と
関係機関との連携による進路へのアプローチ

| 中学3年間の支援ロードマップ

中学1年次

2病院での受診。スモールステップでの参加。本人の意思を確認しつつ行事への誘い掛けを続ける。

入浴カレンダーとシールによるトークンの提案など。

中学2年次

主治医の勧めで訪問看護を開始。

安心できる第三者との関わりの中で、適切な気持ちの表出を目標に設定。

中学3年次(進路変更)

「役者になりたい」と夢を語り、通信制高校に興味をもつ。学校と訪問看護、主治医で定期的な情報共有を強化。

進学に向けた準備

主治医から「本人が納得のいく進路選択が大切」と助言を受け、通信制高校の担当者と複数回にわたる詳細な打合せを実施。

取組

関係機関連携を通じたアプローチの3つの柱



医療・看護との密な情報共有

主治医からの専門的な助言や、訪問看護師による丁寧な傾聴。学校での様子と家庭での様子を相互にフィードバックし、指導に活かした。



リモートと登校の柔軟な選択

集団や空間への過度な緊張感を考慮し、学校側からリモート授業の誘い掛けを継続。家庭と連携し、段階的な学習参加をサポートした。



本人が主体の納得する授業参加・進路選択

教員や保護者の一方的な決定ではなく、Aさん本人の「やってみたい」という意欲を重視。進学希望校（通信制）とも早期連携を図った。

結果

| 授業参加・登校機会の増加と対人関係の広がり

興味に応じた学習

行事の事前・事後学習や音楽の授業など、興味のある活動に楽しみを見出し、意欲的に参加。

集団への適応

調理活動や学部の夏祭り等において、教師が仲介することで他生徒との自然な交流が増え、集団の前で発表するなどの姿が見られるようになった。



結果

| 通信制高校進学をイメージして主体的に取り組む姿

高校体験・手続きへの挑戦

通信制高校のオープンスクールや、電車通学の練習を兼ねた体験活動への積極的な参加。自分自身で見通しをもち、入学手続きやステップアッププログラムに意欲的に取り組む。

進学を意識した「自己管理」

学校生活においても変化が見られ、自分で週の登校予定を作成するようになった。進学後の生活で必要になることについて、教師と相談しながら自主的に準備を進める姿が見られるようになる。

興味関心に合わせた活動や進学がモチベーションとなり、学校への登校や各種活動への参加が大きく増えた。

Ⅲ 3年間の連携から得られた成果と課題

実践を通して見えてきたこと

関係機関との連携は本人と学校・社会をつなぐ架け橋

家庭や連携先からの本人の状態や家庭の状況などについて情報を入手し、理解することで、学校からそれに合わせた活動や指導支援を提供することができる。

各機関が連携し、情報を共有しながら、それぞれの役割を果たしていくことで、橋が太く強くなる。



| 実践の成果とこれからの課題

成果①

「安心感と自己決定」

主治医の助言に沿って本人の意向を大切にした支援を行ったことで、安心して気持ちを伝えられる関係性が構築された。それによって、意欲的に活動に参加する姿が増え、納得のいく進路を選択することができた。

成果②

「連携による多角的なアプローチ」

本人の気持ちや考えを理解する上で、家庭や訪問看護師、進学先の高校など、各機関からの情報と多角的なアプローチが有効であった。

課題

「つまづきへの耐性と連携」

学習空白や対人関係の未熟さ、実社会での経験の不足により、トラブルやつまづきに発展する可能性が高い。環境適応、自己管理、メンタルケア等の面で、今後も関係機関が切れ目なく連携を続け、サポートしていくことが必要である。

ご清聴ありがとうございました

～関係機関との連携を通じた生徒理解と指導・支援～

新潟県立吉田特別支援学校 中学部